ゆめここ通信

2021年１月　第6号

地域支援センター
「ゆめここ」

第５号では、自立活動の指導と各教科等を合わせた指導との関連について取り上げました。今回は、自立活動と地域支援について整理しました。

自立活動と地域支援について

地域支援とは、どのような視点で行っていくべきものなのでしょうか。法令や学習指導要領等を確認しながら整理していきます。

地域支援（出かける支援）の根拠と考え方

【学校教育法第８１条　より】

「幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校においては、次項各号のいずれかに該当するする幼児、児童、生徒及びその他教育上特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対し、文部科学大臣の定めるところにより、**障害による学習上又は生活上の困難を克服するための教育**を行うものとする。」

知的障害者、肢体不自由者、身体虚弱者、弱視者、難聴者、その他障害のある者で、特別支援学級において教育を行うことが適当なもの

自立活動の内容、視点

【学校教育法第７４条　より】

「特別支援学校は、・・・（省略）・・・幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校の要請に応じて第八十一条第一項に規定する幼児、児童又は生徒の教育に関し**必要な助言又は援助を行う**よう努めるものとする。」

地域のセンターとしての役割

◎　幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校だけでは難しい場合に、特別支援学校が支援をすることで、各学校で適正に特別支援教育を行うことを示しています。

【幼稚園教育要領　小・中学校、高等学校学習指導要領より】

障害のある児童など（幼児・生徒も含む）への指導

「ア　障害のある児童などの指導については、**特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ**、個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。」

【幼稚園教育要領解説　小・中学校、高等学校学習指導要領解説　より】

「障害のある児童など（幼児、生徒も含む）には、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、言語障害、情緒障害、自閉症、LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）などのほか、学習面又は行動面において困難のある児童（幼児、生徒も含む）で発達障害の可能性のある者も含まれている。」

◎　幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び中等教育学校では、上記のような特別な支援を必要とするすべての幼児、児童、生徒に対して適切な支援を行う、と示されています。

上記のことから、地域支援では、**障害による学習上又は生活上の困難を克服するための教育、つまり「自立活動の内容、視点」**を中心に、助言、援助を行っていくことと考えられます。

☆裏面☆では、地域支援センター「ゆめここ」で取り組んできた地域支援の具体例を示しましたので、ご確認ください。

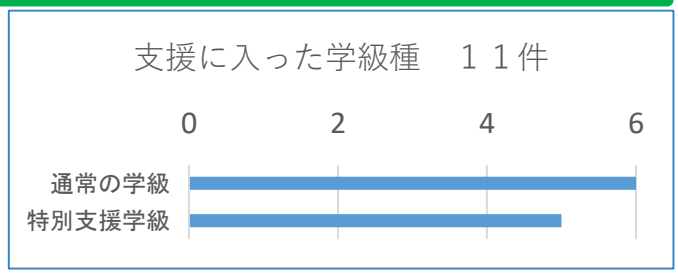
地域支援センター「ゆめここ」の取組

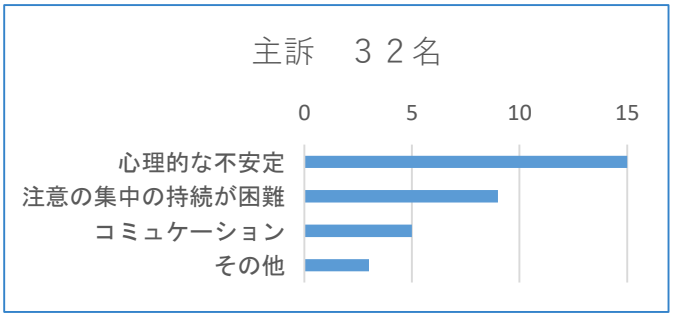
出かける支援（相談支援・研修支援）　田村地区の傾向

相談支援１１件、研修支援４件、合計１５件（１２月末日まで）の支援に取り組んだ。

○　相談支援で支援に入った学級種は、１１件中、６件が通常の学級（幼稚園・こども園も含む）、５件が特別支援学級（知的・自閉症情緒）であり、約半々であった。

○　相談支援１１件中、３２名の幼児、児童の支援を担当した。主訴として、心理的な不安定に関することが１５件で一番多く、注意の集中の持続に困難さがあることが９件と続いた。
　田村地区の傾向として、上記の２つが主な課題であることが分かった。





出かける支援の具体例

児童の実態

○授業には参加せず、机上で鉛筆や消しゴムをいじるなどして学習に関係の無いことをしている。

○離席したり、大声を出して授業を妨害したりするなど、他の子の学習を妨げている。

○気に入らないと、暴言を吐いたり、暴力を振るったりする。

子どもの困難さをどう見るか

背景要因

認知面の課題

○授業の内容を理解できなかったり、興味関心をもてなかったりするなど、できないことが増えてきている。一方で、教師の話を聞いていたり、挙手をして発表したりするなどの面もある。

自己肯定感の低下

○授業が分からなくなり、授業中に孤立しており、自分の存在をアピールしているようにも考えられる。

心理的な不安定

○できないことが多くなり、イライラや不安感から、負の表出が出てしまっている。

自立活動の視点

支援策

○音声言語だけでなく、文字や図式化した説明を加え、視覚的に理解を深めることができるようにする。

○ 得意なことやできている姿に注目して、対象児を称賛したりよさを認めたりしていくことで、自己肯定感を高めていく。

○教師が意図的にかかわりをもつことや声を掛けること、友達とやりとりする場面を設けることで、学級への所属の意識を高め、安心した気持ちで学習に取り組むことができるようにする。

指導方法・教材のアイディアの提案

『子どもの困難さをどう見るか』『自立活動の視点』『指導方法・教材のアイディア』。これらについては、私たちが、**日々の授業実践で取り組んでいることそのもの**です。日々の授業での取組が、そのまま地域支援（出かける支援）に生かせるものになってきます。たむら支援学校全体で、地域のセンター的な役割を担っていきましょう。